

CHOPIN
magazine

I ♥ PIANO
ピアノ音楽誌
January 2018 No. 408

ショパン 1

特集1 ▶ ピアニストに聞きたい10のこと

特集2 ▶ 羽生結弦選手も舞う!

ショパンのバラード第1番徹底分析



特別企画

新年お年玉プレゼント

連載

斎藤雅広の「お江戸で連談!」

ゲスト 仲道郁代

新連載

稲垣えみ子

「アフロのピアノレッスン」



2018 January

Vol.35 No.1

Total No.408

(12月18日発売)

表紙写真

山路ゆか(アンナ・マリコヴァ) 田中宣明(羽生結弦)

表紙デザイン

根津雄一

目次写真

山路ゆか(アンナ・マリコヴァ)



5 Pianist Special Interview No.263

アンナ・マリコヴァ Anna MALIKOVA

今年初開催！ハルビン国際音楽コンクール
審査員の目に映るコンクールの世界

10 特集1 ピアニストに聞きたい10のこと

赤松林太郎 青柳晋 上原彰子 小川典子 金子三勇士 菊地裕介 熊本マリ 近藤嘉宏 斎藤雅広 貫川風 白石光隆
関本昌平 反田恭平 高橋多佳子 辻井伸行 仲道郁代 久元祐子 福岡洸太郎 宮谷理香

57 特別企画 2018年 新年お年玉プレゼント

59 特集2 羽生結弦選手も舞う！

シヨパンのバラード第1番徹底分析

華麗に舞う！フィギュアスケート羽生結弦選手が今季使う

シヨパン《バラード第1番》の編曲 森曠士朗

バラード第1番にまつわる裏話 萩谷由紀子

バラード第1番ピアニストの目にはどう映る!?

菊地裕介 葛ジェゴシユ・ニヤムチュク 宮谷理香 横山幸雄

往年のピアニストたちとシヨパン《バラード第1番》 斎藤雅広

弾いてみよう！バラード第1番誌上レッスン 生田美子

楽聖とシヨパンのバラード第1番 下田幸一

バラード第1番に隠された不協和音の謎 伊東光介

80

78

74

70

66

64

60

1月12日より中国にて開催される『ハルビン国際コンクール』で審査員を務めるアンナ・マリコヴァさん。日本でも度々演奏会やマスタークラスを行い、その指から紡がれる美しい音色で音楽ファンを魅了する世界的ピアニスト。飾らず穏やかな人柄とチャーミングな笑顔で、周りを幸せな気持ちにしてくれる……。そんなマリコヴァさんの魅力に迫った。

Pianist
Special
Interview
No.263

今年初開催！ ハルビン国際音楽コンクール 審査員の目に映る コンクールの世界

アンナ・マリコヴァ
Anna MALIKOVA

旧ソビエト連邦のウズベキスタンの首都タシュケント生まれ。モスクワ中央音楽院、チャイコフスキー音楽院卒業。その後数年にわたってチャイコフスキー音楽院で教鞭をとる一方、新進ピアニストとして注目を集め、活躍。ソフィア国際音楽コンクール、ショパン国際ピアノ・コンクール、シドニー国際ピアノ・コンクールいずれも上位入賞。1993年モントペリエ国際音楽コンクールで第1位を獲得。ピアノ部門で12年ぶりの優勝者となり、権威たる地位を確立した。これまでに、バイエルン放送交響楽団、ケルンWDR交響楽団、ロシア国立交響楽団、ワルシャワ国立フィルハーモニー管弦楽団、オスロ・フィルハーモニー管弦楽団、南西ドイツ放送交響楽団、シドニー交響楽団、アカデミー室内管弦楽団、東京交響楽団、日本センテノリー交響楽団、広島交響楽団等、多くのオーケストラと共演。近年は、ソロ・リサイタルや室内楽で活躍する他、アタラ、モスクワ、ワルシャワでのショパン国際ピアノ・コンクール、フランスでのヨーロッパ国際ピアノ・コンクール等の審査員を務めた。



「世界中で最も大きい コンクールの一つに」

マリコヴァさんは今年初めて開催される「ハルビン国際音楽コンクール」の審査員を務めていらっしゃる。8月に行われたコンクール参加者のセレクションに立ち会われ、すでに一次審査に進むコンテストアントが決まりましたが、このコンクールはどのようなコンクールなのでしょう？

このコンクールは黒竜江省ハルビン市とハルビン音楽院によって組織された新しいコンクールです。ヴァイオリン、声楽、ピアノという3部門が用意され、世界中で最も大きいコンクールの一つになるでしょう。

中国の方たちは何事も大きなスケールをお持ちです。音楽院もそうなのですが、こんなにも美しく巨大な音楽院はこれまでに見たことはありません！そして、その建築物が完全にロシア様式であることが私には大変興味深いのです。コンクールも同じような「特徴」を持つのかはわかりませんが、私が知っていることは、事務局長を務める私の夫が前回のチャイコフスキー国際コンクールの時のように、公平性と透明性が

ある開かれたものにしてほしいという事です。中国ではなかなか簡単にはいかないと思いますが、これはロシアでも難しいことなのです。おそらく簡単な場所なんて無いでしょうね！

ビデオ審査はとても良い雰囲気で行われましたが、本当に大変でした。150人以上のビデオを朝から晩まで4日間にわたって真剣に見て聴き続けました。とてもハイレベルな演奏だったので、ピアニストを30人だけ選ぶことはとても難しかったです。

9月1日にウェブサイトで結果と共に一次審査の演奏順も発表されました。他のコンクールでは開催期間中に演奏順を決めるくじ引きなどをしますが、出発前からすでに演奏する順番がわかっているということ、全ての参加者が時差ボケなどの問題を回避するために事前に計画を立てることができるのです。これは素晴らしいアイデアだと思います。

アジアで開催されるコンクールですが、日本を含めたアジア諸国のピアノ界をどう感じますか？

あはは（笑）、そうですね……。もし事実だけを見るとするならば、アジアの中でも特に日本、韓国、中



ハルビン国際音楽コンクール事務局長のペーター・グロート氏と

国には本当にたくさんピアノニストがいます。日本は他のアジア諸国に比べるとクラシック音楽の伝統は長く存在しているように思います。これは、日本の熱心な音楽生活や優れた音楽教育などから明らかです。日本におけるクラシック音楽の文化は韓国より少し早く、中国よりはさらに早く始まりました。私は、例えばアジアやヨーロッパであっても、ピアノニストの「善し悪し」は国によって決まるものではないと思っています。

マリコヴァさん自身もミュンヘン国際コンクール優勝を始め、数々のコンクールで入賞されており、また名だたるコンクールでの審査員も務められていますが、コンクールとはどのようなものだと思いますか？

コンクールはまず、準備をする全ての人にとって、大きなストレスとたくさん努力を要します。楽しむためだけにコンクールを受ける人はいません。専門的なことを言うと、コンクールでの成績無しで有名になったり、仕事を始めるのは本当に難しいのです！私の経験から言えるのは、ミュンヘン国際音楽コンクールには演奏活動をしていく中で、本当に多くの場面で助けられたということです。その他、シヨパン国際ピアノ・コンクールにも助けられましたね。

今は審査員としてコンクールに携

わかりますが、ものが自然と違つたように見えてきます。審査に真剣になると、コンクールはあまり楽しいものではないと思います。そこには山のように張り詰めた仕事があり、誠実であろうとしている時に沸き起こる責任感や容易いものではないのです。私はそんなにたくさんさんのコンクールで審査をしていませんし、それを「専門」とする人にはなりたくはないと思います。

マスタークラスなども頻繁に開催され、そこで若いピアノニストをたくさん見てこられていくかと思いますが、今のピアノ界についてどう感じますか？

はい、多くの若い人たちのピアノを聴いています。私が思うに、過去数十年間におけるピアノの演奏レベルは、バッハやベートーヴェンの想像を超える域に達しているでしょう。それにはプラスとマイナスの両面があります。今日よりもより良くピアノ（またはヴァイオリンやチェロなど）を演奏することができると疑問です。私た



12月にカワイ浜松で行われたマリコヴァ氏のマスタークラス

ちはピークにきていると思うのです。その一方で、真の音楽的才能はこれまで以上に貴重なものになっていきます！私の師レフ・ナウモフは、かつてこのように語っていました。「驚くほどよく弾く若いピアノニストがたくさんいる昨今、真の音楽家を見つけることはますます難しくなる」。その通りだと思います！

ご自身の今までのピアノ生活を振り返ってみていろいろなことがあったかと思いますが、そもそもマリコヴァさんがピアニストになられるきっかけは何があったのでしょうか。

両親ともにピアニストだったので、私がピアノの道に進んだのはそんなに驚くことではありませんでした。まだ私が小さかった頃に母のピアノを真似し始め、母と一緒に弾いたりして育ててくれました。子供の頃は周囲の子供たちと同じようにダンスがしたかったのですが、母は「バレリーナのように踊りたければ、もちろん音楽を演奏できなければならぬし、そのためにはちゃんと先生が必要でしょー」と言ったのです。私はすっかり騙されて、タシケントの音楽学校で有名な先生だったタマラ・ポポヴィッチのクラスに入ったのです。ダンスの計画はなぜか実現しませんでした(笑)。モスクワにいた時にはそのことすらすっかり忘れていて、素晴らしい音楽家たちやレフ・ナウモフと共に学びました。ピアニストになることを決めた。わけではないのですが、私の人生であらゆることが自然に発展していったのです。

ピアノを弾いている時以外はどんな過ごし方をされているのでしょうか。

か？

そうですね、音楽と、私の仕事に関わる全てのこと、はとでも多くの時間を必要とします。音楽家は常に練習とコンサートのプログラムを用意することを忘れてはなりません。それに加えて、たくさん旅は多くの時間とエネルギーを要します。しかし、もし人生において一つのことで多忙だと、いつか退屈になり精神的に窮屈になってしまうと私は思うのです。読書や、友達と会うこと、美術館を訪れたりすることが好きですし、ストレスを感じている時には、自然や動物も手助けしてくれます。

コンサートの前は心構えをするように努め、ステージに向かう時には集中力を高めています。それ以外にできることはあまりないでしょう！でも、時々枕の下に楽譜を置いて寝ることもあります。ちょっとした口



カフェ「Under the mat」にて

シアの迷信なのです……(笑)。
日本にも度々来日されていますが、日本にはどのような印象をお持ちですか？

日本との出会いは、カルチャーショックのようでした！全てがそれまでに知っていたことと違っていたので、日本文化、日本人の礼儀正しさ、綺麗で、整理されていて……。

例えば、本当のことを言うと、初めて日本に滞在した時はお寿司や刺身は苦手、生の魚を食べるのは想像

像すらできませんでした。20年以上も前の話ですが。でも今はお寿司が大好き！私たちはデュッセルドルフの近くに住んでいるのですが、日本のお店やレストランがたくさんあります。お寿司の美味しいお店があって、いつもそこで買っています。夫は日本語を話せるので、日本語で店員さんにジョークを言っているとおまけしてもらっています！

現在、特に熱を入れて取り組まれている



いる作曲家はいますか？

特にありません。演奏してほしいとリクエストされるものによります。シヨパン・イヤーには、シヨパンのプログラムをたくさんリクエストされました。例えば、私はスクリヤーピンも弾くのですが、スクリヤーピン没後100周年の際にはピアノ・ソナタ全集のCDをリリースしました。しかし、私は音楽に対してあまり「実験的な」人間ではありませんので、ものすごくテクニカルで、エレクトリックで、または「音楽」が伝統的様式によって書かれておらず、図式のように見えるものなどは敬遠してしまいます

今後取り組んでいかれることにはどんなことがありますか？

2018年1月はハルビンで審査をし、このコンクールのオープニング・コンサートでベートーヴェンの《合唱幻想曲》を演奏します。私は一次審査だけ参加して、その後はヴェルビエ音楽祭ディレクターのマーティン・エングストロームが引き継ぎます。彼は一次審査には来られなく、私は残念ながら一次審査の後には残れないので、それとシューマンとシヨスタコーヴィチのピアノ五重奏曲を、スイスのベレスヌス四重奏団と録音します。私たちは2019

年秋にこのプログラムでツアーもいきます。

ヨーロッパでは、リサイタル、マスタークラス、コンクールの審査などもします。

ピアノを愛する日本の読者に向けてメッセージをお願いいたします。

日本を訪れる度に幸せな気持ちになります。たくさんの方の友達や、多くの若いピアニストたちがいますから。これはとても素敵で心地良いことで、日本の方々の思いやりに感謝するばかりです。

シヨパンの読者の皆さんが音楽を愛し続けてくれるようお願いしています！



『第1回ハルビン国際音楽コンクール』

2018年1月12日(金)	オープニングコンサート
1月13日(土)～21日(日)	一次、二次審査
1月23日(火)～24日(水)	ファイナル
1月26日(金)	ガラ・コンサート

※詳しくはオフィシャルホームページ <http://www.imchrb.com/> をご覧ください。